

(参考資料)

# アイデアカード

このアイデアカードは、平成28年10月30日(日)14時より、若葉台地区センターで開催されたまちづくりワークショップのため、横浜国立大学野原研究室の協力により作成されたものです。

まちづくりのヒントや議論の参考として作成されたものですが、学生さんの力作ぞろいですので、これからのまちづくりの参考として記録します。

# (1)子育て



### 1-1 地域包括子育てを実現する

子供が自立するまでの様々なシーンに対応するまちづくりを目指す

0歳～18歳まで、あらゆる体制を確保し、安心安全に子育て・子育てができる場を形成します。

子供が生まれてから自立するまでの様々なシーンでの子育て支援を想定し、スーパー跡地・里山などの様々な地域資源、既存の子育て支援の仕組みなどを包括的に活用しながら、切れ目のない子育て環境を実現します。

**【左図】**  
横浜若葉台マスタープラン 5章  
「子供とまちづくりの連携スキーム」

### 1-2 公園をプレイパークとして使いやすくする

現在、プレイパークの活動が行われている、大貫谷公園などに、プレイパークの常設活動拠点を作ります。プレイパーク活動運営委員会が行政から業務委託を受け、子どもたちの作った作品を保存できる場所を公園内に設置運営できる仕組みにします。

**【事例】 羽根木プレイパーク(世田谷区)**  
プレイパークは、子どもが「やってみよう」ということをなるべく何でも実現できるようにした、遊び場です。たとえば、木登り、穴掘りや工作、水遊び、どろんこ遊び、たき火などなんでもできます。運営は地域住民と、世田谷区が協力して行っています。

出典 <http://piple.konae-kosodate.net/docu/201412000122/>

### 1-3 遊歩道まるごと「こどものあそび場」

団地内の遊歩道全体をこどもセンターと捉え、遊歩道沿いにこども関連施設を配置します。隣接する公園・里山も園庭と捉えて、総合的に活用します。遊歩道自体も、こどもが危なくないよう、地面を柔らかくしたり夜間照明を増やしたりなどを行います。

**こども関連施設などの配置イメージ**

### 1-4 ペットも暮らせるまちにする

犬や猫などのペットとの共生も可能なまちとするために、団地内のルールづくり・施設づくりを行います。ペット療法や癒しを求める層は金銭的に多く、外の人が入ることが期待されます。

**【ルールづくり】**  
団地内の原則ペット飼育不可のルールを変え、飼育可能とします。

**【施設づくり】**  
ドッグカフェ・猫カフェ、ドッグラン、ペット可のマンションへのリノベーション、足洗い場

ペット可能なマンションリノベーション

ドッグカフェ・猫カフェ

ドッグラン

足洗い場

### 1-5 子供預かり型サ高住をつくる

子供を預かる仕組みを設けた、サービス付き高齢者向け住宅(サ高住)の提案です。

お年寄りが子供をお世話しつつ、子供を通して親がお年寄りへの見守りの役割を果たし、相互にケアし合う体制を作ることができます。

また、運営は若葉台団地と関わる深い地元医療法人(赤松会、明芳会等)が行うことを想定しています。病院での診療や団地内施設の運営協力(地域交流拠点「ひまわり」など)を通じて若葉台団地の方々の医療面を支えてきた経験をサ高住運営に活かし、団地のお年寄りへの緩やかな配慮・サポートができると考えられます。

**※「サ高住(サービス付き高齢者向け住宅)」**  
自立(介護認定なし)あるいは軽度の認知症状態の高齢者を受け入れ、バリアフリー対応の賃貸住宅、世帯やNPOなどの事業者が、行政の補助のもとで運営する。

## 2 横浜若葉台マスタープラン アイデアカード

1-6

### 地域包括こどもセンターをつくる



未利用地に、0歳～18歳までの様々なこども向け機能を集約したこどもセンターを作ります。

幼児から中高生までの各段階において、育児保育に対応する一時預かり施設や、放課後の様々な活動やあそび、遊びを支援する施設、子供向けの玩具や子どもの自主的な活動を促す空間など、子ども自身や育て親のニーズが満たされるようなサービス・テナント等を迎え入れます。

**【各段階に向けた子供向け機能の例】**

- 乳幼児向け → 保育・幼稚園、育児保育施設、ボネランド（玩具店）
- 小学生向け → 学習支援、子供版サークル
- 中高生向け → クラブ活動、放課後の居場所

【参考】石巻子どもセンター（http://www.ishinomaki.com/ishinomaki/）  
 東京都立総合支援センター（http://www.tokyo-hoken.or.jp/）  
 横浜若葉台マスタープラン 基準（0）子供とまちづくりの連携スキーム

1-7

### 突然の「困った」に対応 こども一時預かり施設



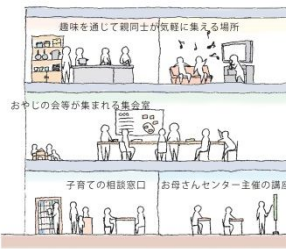
子育て歴の突然の陥りニーズに対応する施設を設けます。急用や病気などで平日の夕方や休日にこどもの面倒を見られなくなった子育て世代がこどもを一時的に預かってもらったり、保育園へのお迎えを代行してもらったりできる仕組みをつくります。

**【施設立地】**

未利用地4-3-5への設置を想定（緊急時にどこからでもアクセスしやすい場所がよい）

1-8

### 子育て子育て支援拠点をつくる（地域子育て連絡会議）



こどもそのものではなく、子育てを担う、あるいは支援する側の拠点をつくります。気軽に立ち寄れる子育ての相談窓口、お母さん同士のノウハウ共有、「おやじの会」の集まり、こどもとともに気軽に集う場所などを設けます。

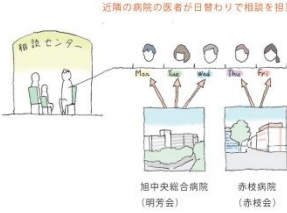
**【拠点内の施設例】**

- ・おかあさんセンター
- ・おやじの会等が集まれる集客室
- ・子育てについて気軽に相談に行ける窓口 etc...

趣味を通じて親同士が気軽に集える場所  
 おやじの会等が集まれる集客室  
 子育ての相談窓口  
 お母さんセンター主催の講座

1-9

### こども病気相談センター



こどもの調子が悪い時、病気がどうかわからなくて困ったときなど、子育て、特にこどもの病気に関する相談センターを設置します。

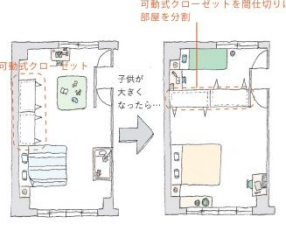
医療法人（明芳会、赤枝会等）の協力によって、日替わりで医師が常駐し相談に乗ってもらえる仕組みをつくります。

近隣の病院の医師が日替わりで相談を担当

旭中央総合病院（明芳会）  
 赤枝病院（赤枝会）

1-10

### 子育てにふさわしい住まいを提供する



団地の住戸を、子育て環境にふさわしい魅力的なものに「リノベーション」（改修）する提案です。

**【リノベーション例】**

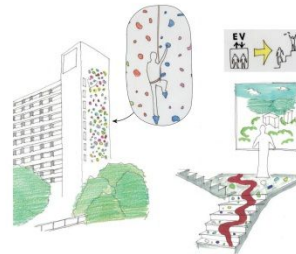
大きな取付の扉を設け、子供が大きくなったら隣仕切りで両親の部屋と子供部屋に分割できるようにする。

【参考】京都府住宅供給公社 / 京都堀川団地再生まちづくり（http://kyoto-juko.jp/horikawa/kosodate/）

## (2) 高齢者



### 2-1 健康まちづくりを推進する

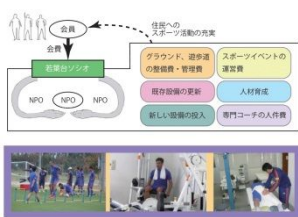


団地居住者の健康増進を考えた施設・拠点づくりを行います。ジムに行ったりすることではなく、日常生活の行動の間に自然と行えるものです。

健康改善を目的に自然の光を取り入れるために階段を上り下りする際に周りの木々を目にすることができるようになります。階段をもっと魅力的にし、エレベーターに変わる手段として、より利用しやすくします。

団地の壁を用いたロックライミングを設置したりして、幅広い層の人たちが楽しめ、外部からも人がやってくる仕掛けを作ります。

### 2-2 「若葉台ソシオ」をつくる

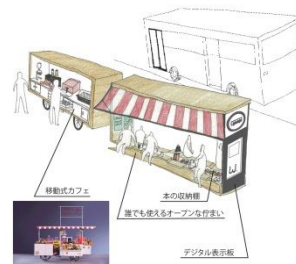


現在あるNPO等のスポーツコミュニティを発展させた組織です。会費から今まで出来なかった現状足りないスポーツ施設の整備（回遊路をスポーツしやすい環境へシフト・ランステーションを作って運営も行うなど）で住民のスポーツ活動が充実します。

【事例】FCバルセロナ新浦後援会  
練習場やクラブハウスの施設（ミストサウナや医療機器など）、栄養面の考えた食をサッカーに集中できる環境が年間1億円による後援会の支援でつくられています。

【事例】FCバルセロナソシオ  
FCバルセロナには、オーナー、オーナー企業も存在しません。ソシオと呼ばれるファンクラブの会員たちによって運営されているクラブです。

### 2-3 バス停コミュニティカフェ



若葉台団地の住民が普段利用するバス停がバスを待つだけの場所ではなく、ひとりで本や雑誌を読みながらお茶を飲んでゆったりとくつろいだり、人が集まって談笑したりして過ごせるスペースになります。

置いてある本をバス内に持ち込んで読んだり、バスを降りた後に選んで持ち帰って読んだりできます。ゆるく気軽に集えるコミュニケーションツールとしての機能が期待できます。

【事例】Homme de Fer Station (ストラスブール・仏)



### 2-4 診療カフェ（旭中央総合病院の診療専門分館）



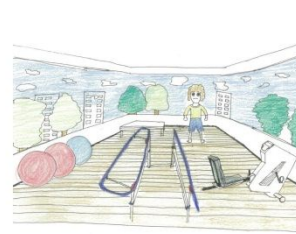
未事業用地に旭中央総合病院の診療部門を分館として移設します。（または診療専門の病院でも可）

待合所には交流用のカフェも用意し、気軽な空間づくりを行います。

診療と治療を分けることで、日常的に診療部門を利用する層と、緊急で治療を受ける必要のある層の両方が、満足して病院を利用できる仕組みです。

トリアージにより、重病・重症の場合は本館へ、それ以外は分館へ誘導することも考えられます。

### 2-5 リハビリ・リライフセンターをつくる



療養回復機能を備えた施設を作ります。リハビリを必要とする人を受け入れる組織のないオープンな雰囲気を持たせます。

また、団地の豊かな自然環境や食資源と合わせたリハビリテーションプログラムを行い、他地域とは違うリハビリのスタイルを生み出します。さらに、スポーツの盛んな地域性を反映し、スポーツリハビリの部門も設置します。

2-6

### 多世代交流センターをつくる



十分な広さを持った、新しい多世代交流センターを設置します。

若葉台では、地域ケアプラザが総合的な地域ケアを実現していますが、今後さらに多くの人にケアが行き届くように、十分なキャパシティを確保する必要があります。

子育て、障がい、高齢、ボランティア等の講座を開催し、様々な学習や交流の場を提供します。

また、赤ちゃんが遊ぶスペース、小学生が勉強する学習スペース、図書室や調理室があり、多世代が集まり交流が生まれる施設にします。

2-7

### 健康まちづくりサテライトセンターの設置



若葉台一丁目～四丁目の各地区に小さな多世代交流拠点を構えます。介護福祉・相談、健康に関するミニ拠点となります。

拠点づくりにあたっては、ミニスーパーや住棟の一角などの既存施設を活用します。

日頃の相談相手となるような、住民に寄り添った親しみやすい環境づくりを行います。

2-8

### 乳母車カスタムセンター



高齢者が外出で利用する乳母車を花壇・本棚などにカスタムできる工房をつくります。持ち主はマイ乳母車で外出を楽しみ、手押し車で街を歩くことで地域のアクセントにもなります。ひまわりに置いてある手押し車や若葉台で使われているティコプリトルワゴンをカスタムすることも考えられます。

【事例】オンパファクトリー（香川県男木島）  
男木島の住民のオンパの修理、カスタムを施す工房のことです。このオンパに、修理やペイントを施して、実際に日常生活の中で使えるようにするというプロジェクトです。トマトを運ぶ木製オンパや花オンパ、ライト付きオンパ、移動図書館オンパ、移動中には本の運搬時の収納とディスプレイができます。

2-9

### Good Job! センター



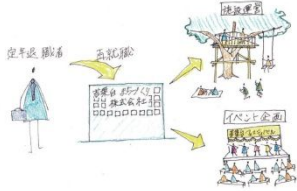
障害を持った人の仕事づくりに取り組む施設を作ります。障害者の個性豊かな表現に着目し、それを生かしたいと考える外部のデザイナー・企業と共にプロダクト開発を行う拠点となる施設です。また、既存の自治会やNPO等のつながりを生かし、障害者の働く場を創出したネットワークを作ります。

【事例】Good Job! センター（奈良県香芝市）  
Good Job! センターは、分野・障害・性別・国籍を超えた人たちが出会い、協働するための場所になります。協働の目的は、障害のある人の存在や表現から生まれる新しいモノづくりやサービスデザインの挑戦、そして、はたらく環境の変革です。

出典 <http://goodjobcenter.com>  
<http://www.dnrcnnc.go.jp/scene/406/>

2-10

### 若葉台まちづくり株式会社に再就職する



定年退職後、まちづくりセンターに再就職し、様々なまちづくり活動を行える制度を開設します。退職前までの仕事のスキルを活かしながら、これからの生活の拠点となる若葉台団地の未来をつくり、貢献することができます。

まちをより良くする新しいイベントの企画運営や豊かな緑資源の見守りから育成、地域全体のサポートなどをしている人が持つスキルを活かして行います。

また、師範制度を導入します。町のことをよく知る年上の師匠にまちづくり活動のノウハウや人脈作り、町内の活動を教わることによってスムーズに地域になじむことができるというアイデアです。

### (3) 住宅流通



#### 3-1 グラウンドレベルリノベーション



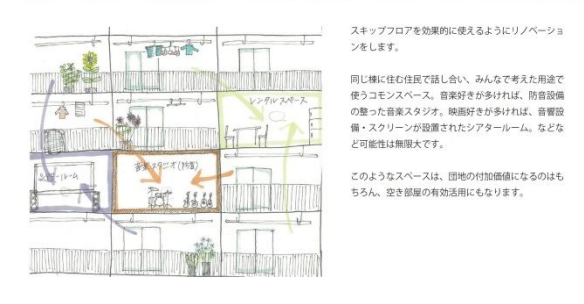
住宅の接地階（もしくはデッキ階）だけをリノベーションして、アクセスのよい公共活用のもとします。図書館やカフェ、共同食堂やシアタースペースダンスホールやパソコン室など、住民の方々が必要としていることを相談して、みんなで用途を考えましょう。人が集まることのできる空間に代わります。一階で人が活動している様子が見えると普段のお散歩も楽しくなります。

#### 3-2 スキップリノベーション 外廊下の設置



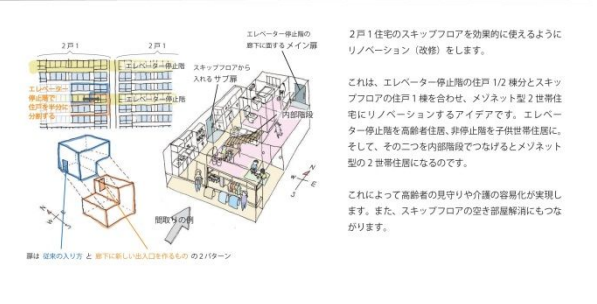
スキップフロアを効果的に使えるようにリノベーションをします。  
 現在外廊下がないため、各階どまりのエレベーターを設ける場合とても多くのエレベーターが必要となります。しかし、外廊下を設けることにより、少ないエレベーターですべての階の住人がエレベーターを乗るようになるのです。これは、現在スキップフロアにお住まいの方が便利に暮らせるようになるだけでなく、スキップフロアの空き部屋解消の効果があります。  
**【事例】ルミナスコート巻巻館 (千葉県千葉市)**  
 階段室型（いわゆる公団住宅型）の集合住宅に耐震補強と併せて、エントランスと共有廊下とEVの動線を付加（増築）することで、バリアフリー化を図った事例。

#### 3-3 スキップリノベーション コモンスペースを作る



スキップフロアを効果的に使えるようにリノベーションをします。  
 同じ様に住む住んで話し合い、みんなで考えた用途で使うコモンスペース。音楽好きが多ければ、防音設備の整った音楽スタジオ。映画好きが多ければ、音響設備・スクリーンが設置されたシアタールーム。などなど可能性は無数です。  
 このようなスペースは、団地の付加価値になるのももちろん、空き部屋の有効活用にもなります。

#### 3-4 スキップリノベーション メゾネット2世帯化



2戸1住宅のスキップフロアを効果的に使えるようにリノベーション（改修）をします。  
 これは、エレベーター停止階の住戸1/2棟分とスキップフロアの住戸1棟を合わせ、メゾネット型2世帯住宅にリノベーションするアイデアです。エレベーター停止階を高齢者住居、非停止階を子供世帯住居に。そして、その二つを内部階段でつなげるとメゾネット型の2世帯住居になるのです。  
 これによって高齢者の見守りや介護の容易化が実現します。また、スキップフロアの空き部屋解消にもつながります。

#### 3-5 若葉台学生寮



周辺大学と連携して、空き部屋に学生のための部屋をつくります。低層部やスキップフロアの一角に集めるコモンスペースを挿入し、ホステルビレッジ方式で、学生の窓口業務を団地内に設置。学生は安く住めて地域施設を利用できる代わりに、地域活動への積極参加が要求されます。  
**【事例】ワテラスの学生寮 (東京都神田区淡路町)**  
 家具や家電の付いたワンルーム（約20㎡）型の学生マンションのこと。家具は管理費込みで、七万五千円と相場より3割程度安く抑えています。その代わりに、淡路エリアマネジメントの学生会員になってもらい、地域行事や、清掃活動に参加することを入居条件にしています。

3-6  
1丁目～4丁目団地カフェ



各丁目別に、こそだてママなども気軽に集まれるカフェをつくります。おいしい珈琲などを入れるため、バリエーションに替えてもらいます。中心部にはそれぞれの拠点を持つカフェがあり、運営は日替わりでママさんや、リタイア世代などが行います。その場で子育て・子守りができるように設備や遊び場も作ります。

【事例】喜連川の団地リノベーション  
(橋本県さくら市)

美しい自然に囲まれて家々が建ち並ぶ住宅地にある団地の1階がリノベーションされたカフェになっています。1階の2軒分のバルコニーを全部取り払い、テラスにしてそちらをカフェの入口にしました。

建築やデザインを軸にしている夫婦によるもので、このカフェは決して、団地内のみならず、まち全体に開かれたカフェとしてつくられています。

3-7  
学生とともにリノベーション



学生と共にリノベーション提案を行います。(賃貸様・もしくは売却予定の分譲住戸)

【事例】京都女子大×UR(京都市西京区)  
緑豊かな洛西ニュータウンでは造成から30年以上が経過し、団地内の緑豊かな環境やコミュニティが成熟しています。

価値観が多様化した今、様々な住まい方のニーズに応えるため、新しい住宅供給であるリノベーションを行い、若い世代を呼び込み多世代ミックスを実現させるものです。そこに、京都女子大学の学生とURとの共働による設計コンペ、住戸リノベーションを行いました。「若い世代にも受け入れられるような若い女性の視点と学生ならではの自由な発想で団地の未来を考えていきたい。」という思いがあります。

3-8  
ホームセンター+DIYハウス



未利用地にホームセンター+工房を立てるアイデアです。今までは、DIYをして部屋を変えたいと考えても、「作業場所や方法がわからない」という問題がありました。しかしこのような施設ができることによって、材料・工具の入手、作業場所確保、作成方法の習得などが簡単になるようになり、DIYを行う環境が整います。また、若葉台の特徴の一つであるたくさん緑も活用できます。若葉台団地の開放性を若葉台団地の中で変え活用していくことができるようになるのです。

【事例】リノベーションセンター(ポートランド)  
小さなコンセプトプレートや戸棚の棚板一つから、トイレやバス、キッチン一式まで売っています。

3-9  
まちづくりセンターの拡張強化



まちづくりセンターに管理運営部門だけでなくまちづくり部門、プランニング部門、デザイン部門なども設けて、多角的な魅力づくりを図ります。また、地域の人も気軽に参画できるような仕組みを作ります。若葉台団地の住人、一人一人が将来像を描き未来の若葉台団地を作ることができるようになります。

また、リノベーションやリノベーションの相談窓口としての機能も加えることによって、住民長く住み続けることのできる若葉台団地になります。

【事例】UDCK 協の麓アーバンデザインセンター  
UDCKの基本的な理念は、地域をベースに、市民と行政、企業、大学などが連携してまちづくりを進めていくための「場所」「環境」をつくるということです。

3-10  
高齢者コンシェルジュ付き学生寮



高齢者と学生がシェアハウス(もしくは隣接居住)を行います。高齢者は、学生の生活をサポートするコンシェルジュとして、働くことができます。高齢者の生活の充実や見守りにもつながります。

【事例】シェアネット東横(菊名)  
シェアネット東横は、東急東横線菊名駅にあるシェアハウスです。ここ一番の特徴は「おばあちゃんコンシェルジュ」という存在。近隣に住んでいて、シェアハウスの掃除や食事のお世話をしてくれます。最新の設備などハードの充実だけでなく、ソフトに付加価値をつけることによって他の不動産との差別化になります。また、このシェアネット東横は、長年家事をやってきた高齢者の方々が活躍できる雇用場としての一面も持っています。

## (4) 中心街



4-1

### まちなかコミュニティセンター



中心街全体を「コミュニティセンター」として、全体でリノベーション(再編)していきます。

商業とコミュニティ機能のバランスを考えて、例えば、現在の中心部の店舗空間のうち、7割を商店などとして、3割をコミュニティ機能(例えば、子育て施設・福祉施設・高齢者施設・交流施設など)を入れることで、様々な機能が集まったセンターをつくります。

4-2

### 週末にぎわい中心街



団地内の人々土日になるとこ外へ出てしまうのではなく、中心街へと集まりみんなで楽しめる若葉台にします。

週末や祭日にイベントを行ったり、近隣では買えない地方の商品やおしゃれな商品をセレクトしたお店が出張オープンします。

中心街がお祭りのようににぎわい、外部からもたくさんの方がやってきます。

4-3

### 中心街の芝生化



中心街の床材を部分的に芝生化して、こどもたちも楽しく集える場所になります。母親が休憩できるように、椅子やテーブルなどのストリートファニチャーも同時に設置します。芝生広場は若葉台団地の中心になるので、イベントの時には使えるように小さなステージも設けます。

#### 【事例1】静岡 青葉シンボルロードの社会実験

芝生・可動式イス・テーブル・屋根など、低予算で実現可能なアイデアを実験的に展開。飲食以外にも可動テーブルでカードゲームを始めたり、小上がりで弾き語りをするなど、想定外の使い方が生まれました。

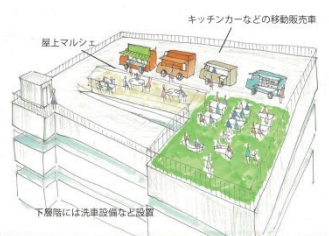
#### 【事例2】和歌山 市街グリーングリーンプロジェクト

天然芝を利用した広場化や、空き店舗を活用したブックカフェなど、駅前通りの可能性を検証する試みです。

事例  
サイト: (1)プロダクトスペース実験型エリアプラン | <http://shizuoka.plane>  
事例: グリーングリーン プロジェクト 2016 | <http://shigoto100.com/wakayama-000>

4-4

### 立体駐車場のコンバージョン



自動車の利用数の減少によって余っている立体駐車場のスペースをコンバージョンして、機能を拡張します。

例えば、洗車用の設備や排水設備を設けて洗車できる場所にしたり、移動販売車が入ってきてもマルシェやピアガーデンを開いたりすることでデッドスペースを有効活用できます。

4-5

### 若葉台中心街運営委員会によるテナントリーシング



商店街、センター、自治会などの団体が集まった中心街運営組織をつくり、一人だけ繁栄のマネージャーを雇って様々なマネジメントしてもらいます。例えば、若葉台団地の人達が来て欲しいと思う店などのニーズ調べ、それに即した空き店舗に誘致して、中心街の活性化を図ります。

#### 【事例】宇都宮もみじ通りのビルスタジオ

高齢化が進み、代替わりがされなかった商店街に出店希望者を募り、お店をオープンさせて再活性化に成功した事例です。リノベーションによってイマドキのおしゃれな惣菜屋さんやドーナツ屋さんなどが出店しています。

出典 <http://shigoto100.com/2014/08/virus.html>



4-6

### 若葉台セレクトショップ



若葉台団地の人たちが欲しい商品の要望をもらい買い付けて販売したり、店員がセレクトしたこれぞ!という逸品を販売する若葉台団地の為のお店をつくります。

また、若葉台の人たちが自らフリーマーケットを開くこともできます。

売り場と倉庫を一体にして在庫管理を柔軟にすることでコストマネジメントをします。

4-7

### 若葉台フェス

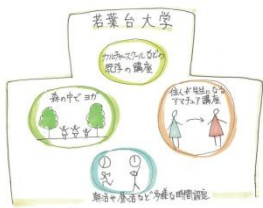


花火大会の他にも外部から多くの人が集まるようなお祭りとして、「若葉台フェス」を開催します。

若葉台にゆかりのあるアーティストや芸能人を呼んだり、「若葉」という言葉にあやかって近隣(横浜市域)の若者による文化イベントとして、若葉台団地を外部に広くPRします。

4-8

### 若葉台大学



今あるカルチャースクールをよりシステム化し若い人や新しく来た人も入りやすい文化活動の拠点をづくります。

地域の人が自分の持っている知識やスキルを教えるようなアマチュアによる講座を開講できたり、プログラムに合わせて活動の場を広げ外部から見えやすくします(中心街やマンションの一部部分、森林の中など)

また、朝活や昼活など活動ニーズに合わせた時間設定、地域の資源を活かしたスクールを開講します。

4-9

### まちなか自習室



中心街の空き店舗部分に、自習室を設置することで中高生の放課後の居場所を提供し、中心街の活性化を図ります。

カフェブースもつくり、Haruからデザートなどを出張販売したり、市民図書館などと連携したミニ図書館を併設したりし、中高生が集まりやすい仕掛けをします。

4-10

### 若葉台バスリニューアルプロジェクト



現在使われている若葉台独自の交通手段であるコミュニティバスを、もっといろんな形で使われる魅力的な若葉台バスとしてリニューアルします。

例えば、  
・乗り合いバス機能だけでなく、移動販売機能やキッチンカー機能も併設して、様々なニーズに対応します。  
・若葉台オリジナルのラッピングバスとします。例えば、デザインコンテストやコンペなどによって、子どもたちも乗りたくなるようなバスにします。  
・バス停も、2,3の提案のように、待っていても楽しい魅力的な場とします。

4-11

### センター地区クリニックモール構想



点検する診療所をセンター地区へ集約し、クリニックモールとする提案です。(ヨーカード2層など)

商業、医療の集積により、センター地区への団地内外の集客力向上と商店街内側(広場側)への人の流れをつくります。人口減に伴う団地内の計画的なエリアマネジメントとして、集約・モール化でわかりやすくする目的もあります。

※集約したクリニック機能は、子育て子育て支援拠点(アイデアカード1-8)など、新たな機能・用途へ移行します。

## (5) 次世代の継承



### 5-1 若葉台木質化計画+若葉台ファブラボ

団地内関係材+県産材を用いて、団地全体を差から新築風に「木質化」します（現状はチップにするくらいしか使われていない）。  
DIYのための工具や最先端器具（レーザーカッター等）を導入して、プロの指導を受けながら気軽に木材等を加工できるセンター（ファブラボ）を設けます。  
ウッドデッキやイス、棚、窓枠など手軽に加工できるものから、中心街をはじめとしてマンション低層部などへ拡げていきます。

【事例】横浜国立大学ローカル実践コア/ファブラボ  
【事例】錦二丁目木質化プロジェクト（名古屋市）

### 5-2 若葉台みどりセンター

若葉台団地全体を「市民動物園」と見立てて、団地内の自然環境を包括的にマネジメントしていくための組織及び施設をつくります。

現在ある公園愛護会やセンター管理部門が一体となり、全体で若葉台みどり委員会を設立します。

若葉台団地全体で協力して、団地内のみどり・生物の管理を行います（清掃、剪定等も含む）。また、豊富な動物を観察できるような、情報提供、展示、ツアー、樹名板などを団地内に組み込みます。

【事例】柏町市民の森（横浜市市民の森制度）

### 5-3 若葉台回遊路計画

若葉台の回遊路を重要な資源と位置づけ、沿道施設は回遊路側に顔を出すようにつくります。

カフェや児童館、RUN ステーション等の活動の拠点となるものを回遊路沿いに設置します（コンテナやプレハブでも可）。

フライトや照明付き掲示板等も設置することで、道の魅力と安全性も高めます。

回遊路に対して建物を開いていく

### 5-4 若葉台農マルシェ(+若葉台農園)

団地内に農的空間を創出します。

既利用地にシェア農園+クワイガルテン（市民農園）及び集の拠点となる施設を設置。また、各団地の前にも小さな菜園（1型あたり1㎡以上で集まると500㎡以上にもなる）を設置して、そこで採れた食材を全て集めて拠点『若葉台農園直売所』及び移動販売車で販売します。外部から講師を呼び、菜園の技術を教えるスクールも実施します。

拠点では、周辺に広がる農地・市民農園・家庭菜園なども連携して、地区や横浜郊外全体の「農ある暮らし」のセンターとしても考えています。

【事例】ネジノニ団地（神奈川県厚木市）  
【事例】多摩平団地（東京都日野市）

空地を新たなコミュニティの象徴として「耕せる空地」にしています。ここでは各人以外も広く参加可能なイベントが実施され、周辺の住人、この地を訪れる人びとにまでコミュニティの領域を拡張させています。

### 5-5 若葉台で移動販売車

団地全体で複数台の移動販売車を所有し、曜日毎に用途の違う車が各町を巡回します。

月曜日：野菜販売  
火曜日：居酒屋・BAR  
水曜日：医療  
木曜日：図書館  
金曜日：お弁当販売  
場所は、各町の空き駐車場部分などにビルトインします。（できれば、場所側にも受けるための設備が備わるとよい）

【事例】東京大学の葉キャンパススタジオ提案「たなカー&ぶらっと」

5-6

### 若葉台防災備蓄倉庫+防災備蓄カフェ



防災食料の使用したカフェ



非常食の備蓄台：パークキャラバン（保土ヶ谷駅前公園）

各町に防災備蓄倉庫を設置し、また団地内にひとつ防災食料を調理した軽食を出すカフェをつくります。

防災備蓄は倉庫に保管しているだけでは賞味期限が過ぎてしまい廃棄するのを待つだけの食料となってしまうため、平常時でも安価で提供できるカフェを一緒に設ける事で、倉庫内のストックを入れ替えることができ、また緊急時の防災備蓄の使用法を日常から学ぶことができます。

また、年に一度入れ替え促進のために防災備蓄や防災機器を使ったお祭りも開催します。

【事例】非常食の備蓄台：パークキャラバン（保土ヶ谷駅前公園）

5-7

### マッチングカシニワ



公園・空きスペース・未利用地を使い、団地に期間限定で貸し付けます。貸し付ける際には、同じ目的を持った団地内のグループと団地外のグループが共同で申請・運営を行います。

【事例】カシニワ制度（千葉県柏市）  
カシニワ制度とは、土地を貸したい土地所有者と使いたい市民団体等がつながるための制度です。町の中の空き地を、みんなが楽しむことのできる空間にする。そしてその空間をみんなで作り管理をしていくという新しい取り組みです。「空き地」を「地域の庭」として活用することができます。

5-8

### エネルギーを管理してスマートタウンを目指す



全住戸にスマートメーターを設置し、手帳にエネルギー管理が行える  
エネルギー管理センターに全住戸のデータが集まり、効率的なエネルギー管理が行える

各住戸にスマートメーターを設置して、CEMS（コミュニティマネジメントシステム）を実施します。またそのための制御管理センターをつくります。

各住戸ではスマートフォン等で簡単に電力消費を確認することができ、効果的に節電を行うことができます。また、団地全体で節電を行い、省エネによるコスト削減をまちづくりにまわします。

5-9

### 若葉台ブランディング（発信）センター



若葉台の情報・魅力を発信するためのセンターを設置し、内部の人だけでなく外部の人も積極的に訪れてもらえる団地へと以下のようにブランディングしていきます。

- ・若葉台ブランド商品をつくる（若葉台野菜、若葉台弁当、若葉台ゆるキャラ）
- ・外部向けの若葉台メディア誌を編集、発行する
- ・外部の講師などを積極的に招いて、団地と他地域をつなぐ

5-10

### 若葉台モビリティセンター



若葉台中央のバスターミナルに様々な個人用モビリティへ交通手段を切り替えられるセンターをつくります。

シェアサイクル、小型シェアカー（荷物運んで翌日もってくればよい）、セグウェイ、子供用自転車、シェア二輪車、乳母車、オンデマンドタクシー等に自由に乗り換えることができます。

各町ごとにそれぞれのモビリティを受けのための場（駐輪場・駐車場等）も設け、一時的に利用した後期限内にセンターへ返却すればよいです。

5-11

### 若葉台メモリアルセンター構想



家族が育てた思い出のまちで家族も眠る。一連の団地の中で、ゆりかごから終の棲家のその先まで、一体的に捉え、循環型の団地を目指します。地縁も強化して、住み継ぐための施設です。風景にも配慮して、魅力ある団地と一体となったデザインとします。

【事例】風の丘葬斎場（大分県中津市）  
横総合計画事務所が設計した葬斎場です。ランドスケープの美しい丘とともに設計されています。

【事例】桜葬（大阪府高槻市）  
NPO法人エンディングセンターが手掛ける「樹木葬」による共同墓地です。

5-12

### 90ha まるごと団地イルミネーション



うちあかり (岐阜県高山市)

スマートイルミネーション (横浜市)

若葉台団地の集合住宅や遊歩道、公園がみな一体となって行うイルミネーションプロジェクトです。単に明るくするだけでなく、魅力創出を図ります。

**【事例】うちあかり (岐阜県高山市長倉)**  
斜面に貼りつけた35世帯の集落で、金世帯に1つずつ灯りをつけ、夜に点灯、朝に消灯して、見守りと景観育成の両立をさせるプロジェクトです。

**【事例】スマートイルミネーション (横浜市中心各區)**  
アートの創造性と最先端環境技術の融合をイルミネーションを通して実現するプロジェクトです。近年では周辺各區にその動きが広がっています。

5-13

### 若葉台 8000mフラワープロムナード



代々木 VILLAGE そら植物園 (東京都渋谷区)

歩行者・自転車歩道を、植物園のようにしてフラワーロードとして彩ります。日常、行動する空間のリノベーションと、スケールの大きい仕掛けで季節の花による団地外からの集客効果を創出します。

**【事例】代々木 VILLAGE そら植物園 (東京都渋谷区)**  
代ゼミ跡地に創られた暫定利用商業店舗とともに、世界中から取り寄せられた植物が、植物園のように並べられ、生態や雑学などが紹介されています。現代版植木屋も併設されています。